

本日「津久井やまゆり園事件追悼式」を行うにあたり、神奈川県を代表して、私の思いをお話させていただきます。

10年前の平成28年7月26日。津久井やまゆり園で19名もの命が奪われる大変悲しい事件がおきました。

お亡くなりになった方々、ご家族を失われたご遺族、大切な仲間を失った園の皆さまの気持ちを思うと、私は今も、強い怒りと深い悲しみがこみあげ、その気持ちを抑えることができません。心からお悔やみ申し上げます。

犯人は「ちゃんとした会話ができない人間は生きている意味がない」という考えでしたが、これは自分勝手に、デタラメで、完全に間違ったものです。

そのことを私たちは決して忘れてはいけません。そして、このような悲しい事件を二度と繰り返してはなりません。

私はあの時現場で感じた、胸が締め付けられるような息苦しさを、今も忘れることができません。しかし、事件そのものを知らない世代も増えてきました。事件から10年の節目にあたり、この想いをしっかりつないでいかなければなりません。

県は、県議会と一緒に「ともに生きる社会かながわ憲章」を作り、その考えを広めるために全力をあげてきました。そして、私自身、障がいのある人たちと何度も話し合い、みなさんの思いや望んでいることを聞きながら、「神奈川県／当事者目線の障害福祉／推進条例～ともに生きる社会を目指して～」という大切な決まりも作りました。

私は、この大切な決まりにあるように、障がいのある人たちの本当の気持ちになって、その思いを大切にし、障がいを理由に差別や虐待されることな

く安心して暮らすことができ、誰もがうれしいと感じられる社会を実現するため、今後も全力で取り組むことをお約束します。

令和八年七月二十五日

神奈川県知事 黒岩 祐治